

J アタリ(Jacques Attali) は 1943 年アルジェリアで生まれ、フランス国立行政学院(ENA)を卒業し、1981~91 年にフランソワ・ミッテラン仏大統領顧問、1991~93 年に欧州復興開発銀行(EBRD)初代総裁などの要職を歴任したフランスの思想家・経済学者である。政治・経済・文化に精通し、ソ連の崩壊、金融危機、テロの脅威、ドナルド・トランプ米大統領の誕生などを的中させたと言われている。

J アタリは 2016 年時点の世界状況を分析し、その結果をもとに 2030 年の世界を次のように大胆に予測した (アタリ、2017)。

- ・市場と民主主義の蜜月関係は終わり、社会は不安定な生活と裏切りを生み出し、公益は消え失せる。
- ・技術進歩によって現在の雇用の半数以上が失われるだろう。
- ・長期的に問題解決に取り組めない民主主義は否定されて全体主義が復活し、原理主義を口実に民主主義と決別する準備が整う。無秩序が世界中に広がることとなる。

彼の予測した未来は科学技術の進歩など明るい面もあるが、「公益は消え失せる」「無秩序が世界中に広がる」など暗たんたるものだ。私たちが未来の世代のことを考えずに利己的な態度をとり続ければ、とてつもない危機を招き入れるのは間違いないと警鐘を鳴らし、利己主義に代わる利他主義を広めるために、まず自己に回帰する必要があると説いた。

2030 年は 7 年以上先なので、彼の予測がどの程度当たっているのかまだ判断できないが、今回新たに J アタリの 2050 年の予測を日経新聞で読んだ (9 月 22 日 ; 注)。その要点は以下のとおりである。

- ①南アジア・中東・エジプト・エチオピア・ブラジル・メキシコなどでは猛暑で居住が困難になる。イギリスの一部やオランダでは洪水の頻発で住めなくなる。
- ②世界の人口は現在の 79 億人から 97 億人になり、増加の半数はインド、ナイジェリア、パキスタン、コンゴ、エチオピア、タンザニア、インドネシア、エジプト、アメリカで誕生する。
- ③デジタル技術の急速な発展により、全ての職業は大きく変化する。クリーンな水素の製造、核分裂、量子コンピューター、ごみのリサイクル、温暖化ガスの削減、神経科学、ナノテクノロジーなどの分野でも大きな進歩が見込まれる。
- ④医療では人工器官の開発が大幅に進む。食生活への配慮、温暖な地域での暮らし、適度な運動などの条件を整えば、平均寿命は 100 歳を超えるだろう。
- ⑤デジタル教育が急速に普及し、アフリカやインドでは伝統的な学校制度が崩壊して、富裕層の子弟向けの私立学校が増える。
- ⑥水など不可欠な天然資源や領土をめぐるウクライナのような地域紛争が続発するかも知れない。中国は世界の覇権を握れず、内政に専念せざるをえなくなり、軍事的な賭けに出る。
- ⑦こうした流れを変えるような世界規模の行動が起こるとは考えにくい。世界が丸丸となって「命の経済」を目指せば、30 年後の未来は明るいだらう。

上記の内容は多少の混乱を誘う。例えば、①でインドやエチオピアなどでは猛暑で居住が困難になると言っている一方で、②ではインドやエチオピアでも大幅に人口が増えると言っている。UN (2022)によると、世界の人口は 2022 年の 79 億人から 2030 年 85 億人、2050 年 97 億人、とゆるやかに増加を続け、2086 年に 104 億人のピークに達し、その後 2100 年まで 104 億人程度で推

移するという。表は 1990 年、2022 年及び 2050 年（中位推計）における世界の人口上位 15 か国を示したものである。日本の人口は 1990 年には第 7 位であったが、2022 年は第 11 位に下がり、2050 年にはこの表からもれてしまった。2050 年は第 16 位がベトナム(107)で、日本 (104) は第 17 位と推計されている（カッコ内は 100 万人単位の人口）。また、ロシアも日本と同様に順位を下げている。

表 世界の人口ランキング

(単位：100万人)

	1990年		2022年		2050年	
1	中国	1,144	中国	1,426	インド	1,668
2	インド	861	インド	1,412	中国	1,317
3	アメリカ	246	アメリカ	337	アメリカ	375
4	インドネシア	181	インドネシア	275	ナイジェリア	375
5	ブラジル	149	パキスタン	234	パキスタン	366
6	ロシア	148	ナイジェリア	216	インドネシア	317
7	日本	123	ブラジル	215	ブラジル	231
8	パキスタン	114	バングラデシュ	170	コンゴ	215
9	バングラデシュ	106	ロシア	145	エチオピア	213
10	ナイジェリア	94	メキシコ	127	バングラデシュ	204
11	メキシコ	81	日本	124	エジプト	160
12	ドイツ	79	エチオピア	122	フィリピン	157
13	ベトナム	66	フィリピン	115	メキシコ	144
14	フィリピン	61	エジプト	110	ロシア	133
15	イギリス	57	ベトナム	98	タンザニア	129

出所：UN(2022)

J アタリの「条件を整えば平均寿命は 2050 年には 100 歳を超える」という予測 (④) は、予測というより条件を整えばそういうことも起こり得るという可能性を述べたにすぎない。中国は富裕になる前に老いてしまう、というわけで「中国は世界の覇権を握れない」(⑥)ということは多くの人を感じているところである。世界が一丸となって健康・福祉・教育・環境など生命を守る領域の経済を強くする方向に向かえば 30 年後の未来は明るいと言っているが、「世界規模の行動が起こるとは考えにくい」とその考え方は自ら否定している (⑦)。

結局、未来を予測することは難しく、既に見えてきていることの今後の展望を人より正確に見通すことはできても、将来どんな新技術が生まれるかなど J アタリでも分かりはしないということである。イギリスの人口は 1990 年には第 15 位であったが、世界への影響力を残しながら縮んで今日に至っている。日本は今後どのような縮み方をするのであろうか？また、2050 年には人口規模で日本がベトナムより小国になることを日本国民はどのように認識しているのであろうか？

(注) 日本経済新聞 2022 年 9 月 22 日朝刊、ジャック・アタリ「30 年後の課題解決、カギは個人に」グローバルオピニオン欄

文献

アタリ J (2017) 2030 年ジャック・アタリの未来予測、林昌宏訳、プレジデント社。

UN (2022) World Population Prospects 2022.